

【ふ】 噴火による被害は多様、火山が遠くても広範囲に影響が及ぶ

火山噴火なんて、遠い山のことに思えますが、なんと日本列島には 110 もの活動の可能性がある火山があります。火山噴火は溶岩が流れ出したり、泥流・火砕流が発生したり火山灰が降下したり、それぞれの火山の特性があります。どのような特徴かは、これまでの山体の地形や地質調査で過去の履歴書ができています。火山が噴火すると、農業基盤障害や航空障害、気象変化といったことが発生します。1707 年の宝永火山噴火では、江戸の街に 2 週間も火山灰が降り注いだといわれています。同じ程度の規模のものだとすれば、首都圏の人口の約 6 割の人に物が届かなくなると試算されているそうです。道路の閉塞、停電、降下火山灰の層厚が 30cm 以上になると木造家屋の倒壊などが発生して、国道も開通に 2~5 日かかるといわれています。これに降雨や地震が重なってくると、新たな土石流などの土砂災害、通行障害などが発生するので、首都の機能は全滅になってその影響は全国へと波及することとなります。

【こ】 五感を活かすためにも、災害への関心を継続して経験をつなぎたい

人は体を通して感じる様々な感覚があります。時に予感とか、虫の知らせとかいわれるものですが、非科学的とばかりは言えないものもあるような気がします。経験した方も多いと思いますが、外にいて急に暗くなって冷たい風が吹いてきたりすると、何かが起きそうだと思い、建物の下などに移動するということがあります。その何かが起きそうだという感覚はどこからきているのでしょうか。土砂災害でも、何となく普段と異なることが見える、感じる、異臭がするというような、前ぶれを感知することは少なくありません。これらのことを防災や減災につなげるということは難しいこともありますが、環境の変化に感覚を研ぎ澄ますことも大事なことなのかもしれません。

【え】 越水がもたらす想像を超える水の勢い

豪雨があると河川を流れる水の量が増大して、その流下量が河川流量を上回ると堤防がないところでは溢れ出すし、堤防が整備されているところでもそれを超える（越水）ことや破壊する（破堤）ことが起きます。いずれにして、大量の水が強大な流体力をもって流れ込んできますので、家屋を損壊させたり流失させたり、ときには地表を大きくえぐることにもなります。実際に目の前で起きることを経験された方が言うには、水が流れ込んでくるといよりは、爆風が寄せてくるような恐怖を感じたといえます。